

『採血で心臓の働きがわかる!?』

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



採血検査の結果、糖尿病や肝臓病、腎臓病がありますと言われることはあっても心臓病がありますと言われることはありませんでした。心臓の働きは身体の診察や心電図や胸部レントゲンなどで判断してきましたが、近年BNPやNT pro BNPといった項目を採血検査することにより心臓の働きを評価できるようになっています。

BNPやNT pro BNPとは心臓を守る働きがあるホルモンで、心臓に負荷がかかると分泌され、血管を広げたり、尿量を増やすことにより心臓の負担を減らしてくれます。そのため心臓の働きが悪い人ほどこのホルモンが多く分泌されることとなります。BNPとNT pro BNPはいずれか一方だけが測定され、どちらを測定するかは病院毎に異なります。BNPの値が40以下、NT pro BNPなら125以下であれば心不全の可能性は低いとされています。心臓に持病がある人や、高血圧や不整脈の人では数値が高くなる場合がありますが、目安としてはNT pro BNPの場合、数値が400を超えると専門医を受診、900を超えると治療対象となります。重度の心臓病の場合は数値が10000を超えることもあります。

BNPやNT pro BNPが高値だと心臓病が疑われますが、心臓病の種類まではわかりません。虚血性心臓病、不整脈、心臓弁膜症、心臓心筋症など、どういった心臓病があるのかは心電図、胸部レントゲン、心臓超音波（エコー）検査により診断されます。まだBNPやNT pro BNPを健康診断の採血項目に取り入れてるところはほとんどなく、病院で採血検査する場合も同時に胸部レントゲンを撮影することが条件になっており、検査する上での制限はありますが次第に普及してきています。

採血検査は簡単なため、BNPやNT pro BNPの検査が過剰に行われることは望ましくありませんが、心臓病の有無の確認や心臓病を抱える人の経過を調べるためには重要な検査であり、うまく取り入れていく必要があります。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000